

1 はじめに

今年度は令和4年12月に、生徒、保護者、教職員による「令和4年度学校評価アンケート」を実施いたしました。

このアンケートは、今年度の教育活動について、本校のグランドデザインの達成状況や達成に向けた取組の適切さ等を検証するとともに、次年度への改善を図るために、学校評価として実施したものです。

今回のアンケート結果を踏まえ、本校の課題を確認するとともに、学校評議員会議において、学校自己評価を実施いたしました。

2 学校評価アンケート結果及び自己評価

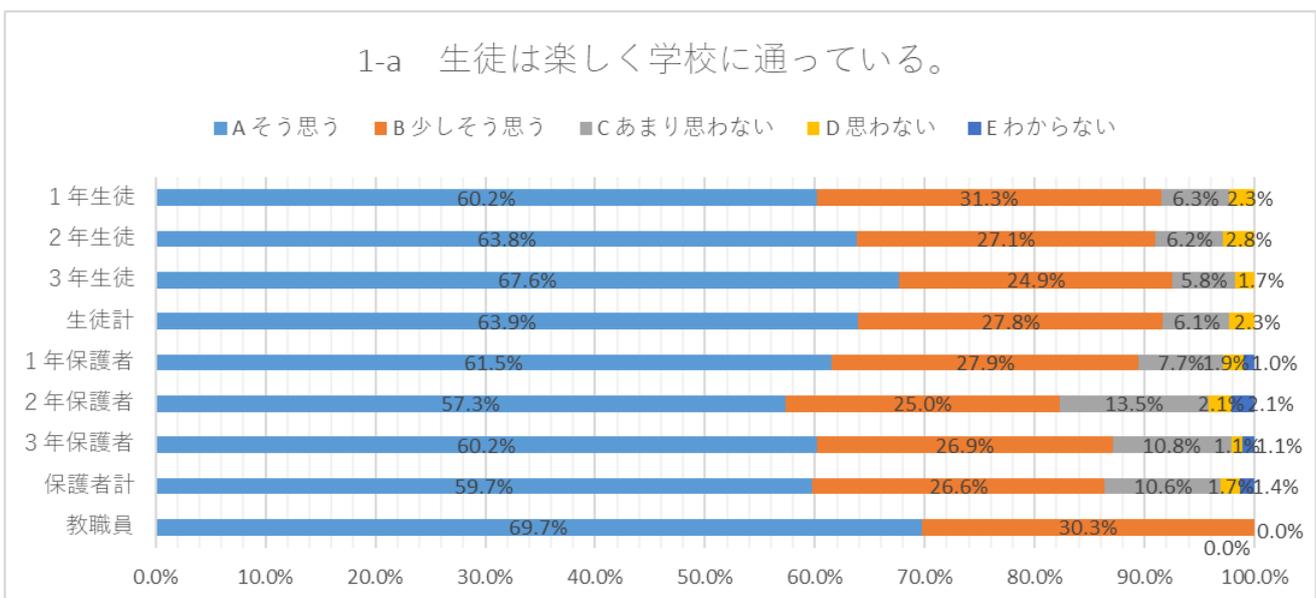
まず、令和3年度の学校評価アンケートにおいて、保護者の「分からない」という回答が多いことが最も大きな課題となりました。そのため、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じた上で、以下のとおり保護者の皆様が生徒の学校生活を直接御覧いただく機会を増やすとともに、授業参観等保護者が来校した学校行事後、すぐにくすくすメールによる保護者対象アンケートを実施し、改善を行う機会を設けました。

- ①年1回であった授業参観を年3回とし、うち一回を土曜日開催
- ②体育祭での保護者の入替を廃止し、全校種目や応援合戦等も参観可能
- ③全保護者対象とした三者面談を10～11月に実施

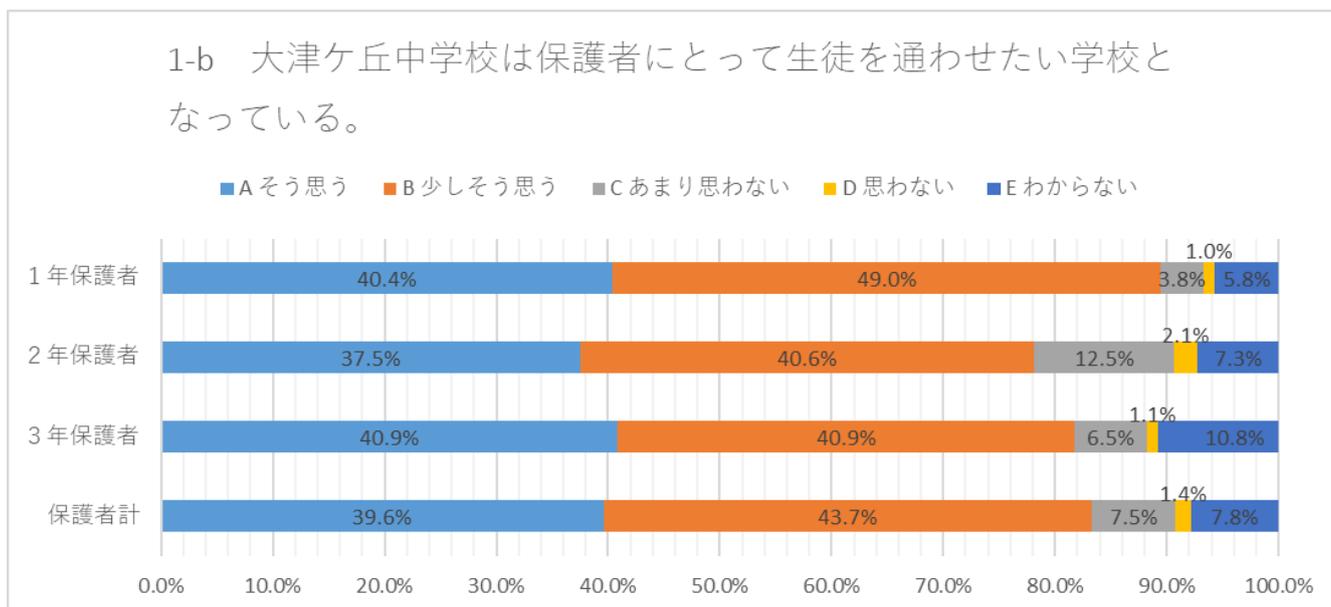
その結果、今年度の保護者アンケートの17項目のうち、10項目で「分からない」という回答が減少するとともに、学校に対する肯定的な意見が9項目で増加いたしました。

(1) 目指す学校像について

■設問1-a「生徒は楽しく学校に通っている。」



■設問 1 - b 「大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。」



1 - a 「生徒は楽しく学校に通っている。」については、生徒・保護者・教職員のすべてにおいて、「そう思う」「少しそう思う」を合算した肯定的評価が86%を超え、特に生徒は約92%を超える結果となりました。

生徒は、学校生活における学習、部活動、友人関係、教職員との関係等、様々な経験を重ね、時には思い通りにならなかつたり、トラブル等も経験したりしながらも、9割以上の生徒が楽しい学校生活を送っていると考えられます。

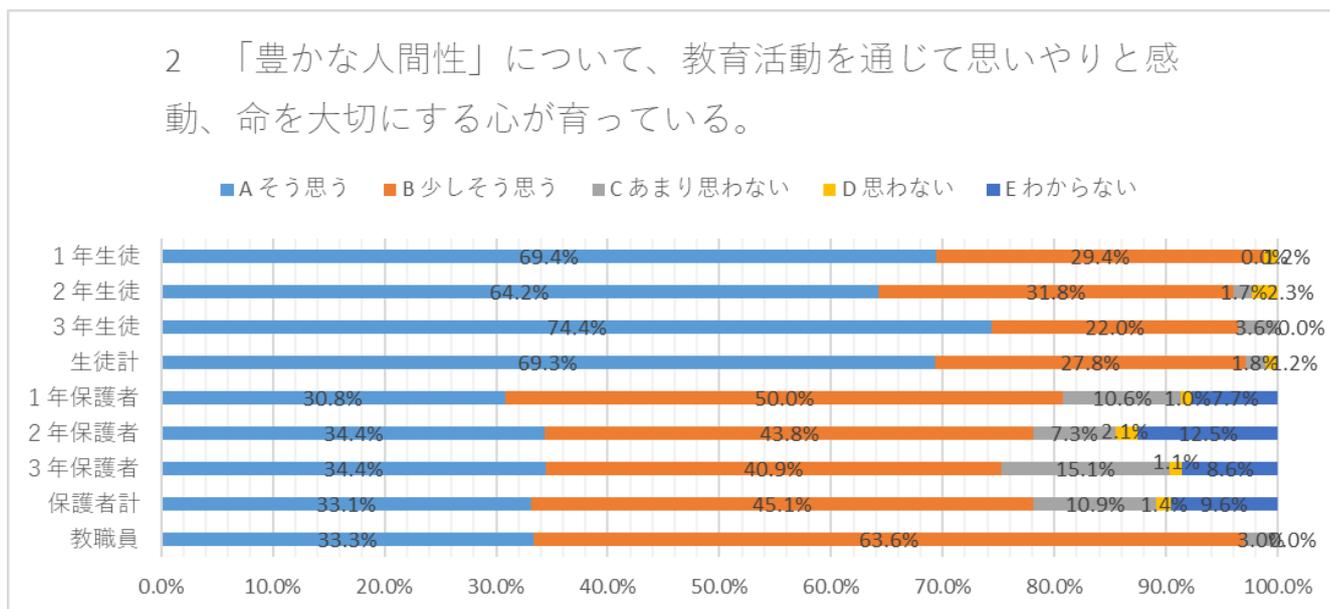
特に、今年度は、3年ぶりに体育祭を3学年揃って実施し、宿泊行事の林間学校（第2学年）、修学旅行（第3学年）も再開することができました。また、部活動の各種大会も実施され、生徒が日頃の成果を発揮する場が増加しました。林間学校については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2泊3日の予定を1泊2日に変更いたしました。3日目に予定していた班別行動については、新たに12月に鎌倉校外学習を追加することで、その目的を達成することができました。

一方、生徒の約8%は「あまり思わない」「思わない」を合算した否定的評価となっています。学校に登校することができない生徒、教室に入ることができない生徒、学校が楽しくないという生徒が依然としていることを大きく受け止め、学校はすべての生徒において、「安全で楽しく、自己実現ができる場」であることを目指し、個に応じた教育活動の改善等を図ります。

また、1 - b 「大津ヶ丘中学校は保護者にとって生徒を通わせたい学校となっている。」については、保護者の肯定的意見が昨年度比で約5%増加し、8割以上の保護者の方にとって「通わせたい学校」という結果になりました。一方、本校の指導に対する保護者の疑問や不満により、今回のアンケートで具体的な否定的意見もあることから、今年度同様、丁寧に学校の方針を説明し、改善すべき点については具体的な解決策を検討していきます。

(2) 豊かな人間性（思いやりと感動、命の大切さ）について

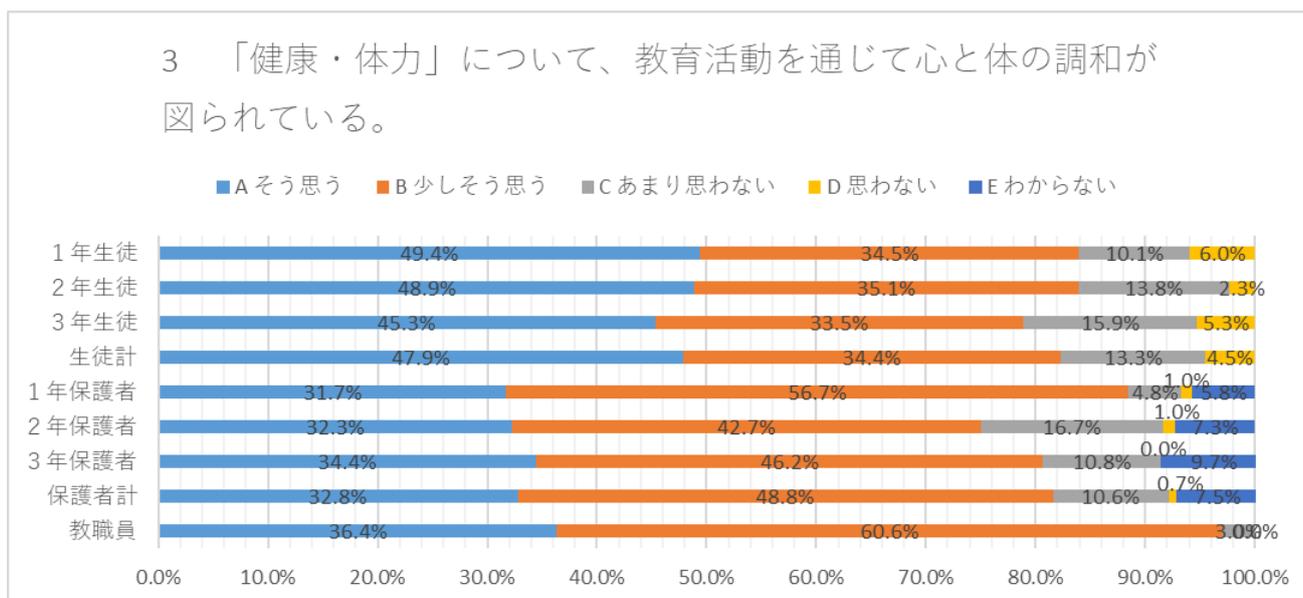
■設問2 『豊かな人間性』について、教育活動を通じて思いやりと感動、命を大切にしている心が育っている。』



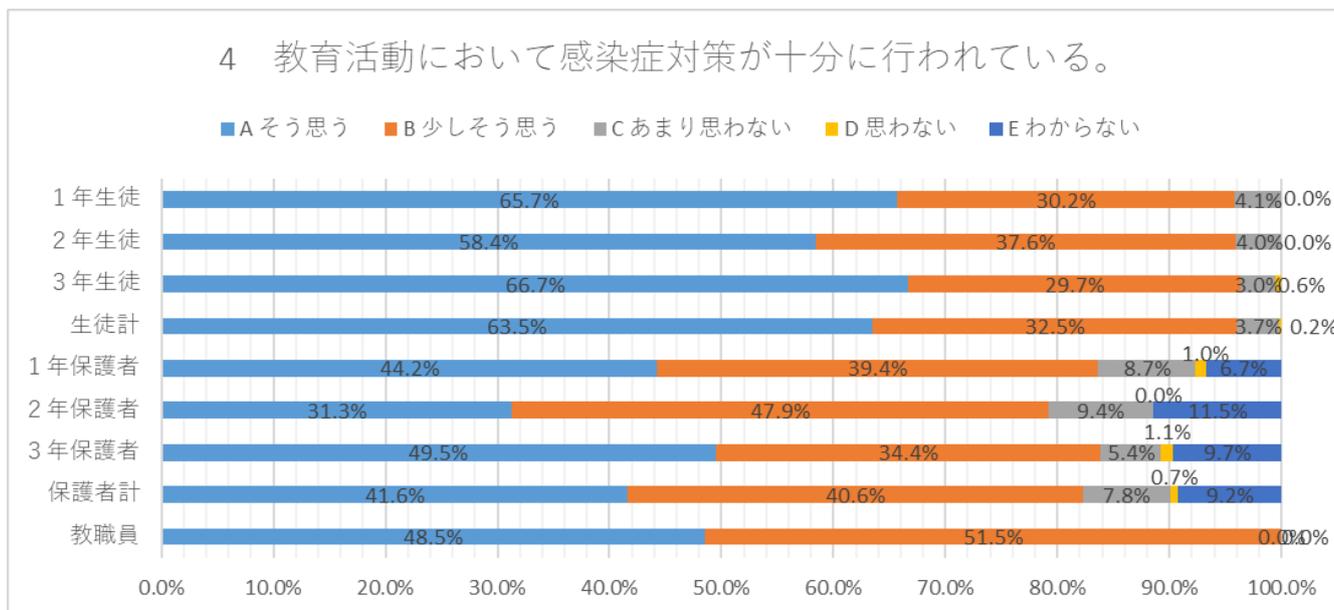
本校の学校目標である「未来を切り拓く人間力の育成」を目指し、学校生活の中でも道徳教育や体験活動を中心に、豊かな心を育てています。結果を見ると、生徒の約97%以上が「思いやりと感動、命を大切にしている心が育っている」と回答しています。一方、保護者の方の回答は約78%にとどまっていますが、昨年度比で4%の上昇傾向が見られています。現在の学校目標に変更してから2年目を迎え、道徳教育、体験活動の成果が少しずつ現れていると考えます。

(3) (4) 健康・体力（コーディネーション「心と体を整える」）について

■設問3 『健康・体力』について、教育活動を通じて心と体の調和が図られている。』



■設問4 「教育活動において感染症対策が十分に行われている。」



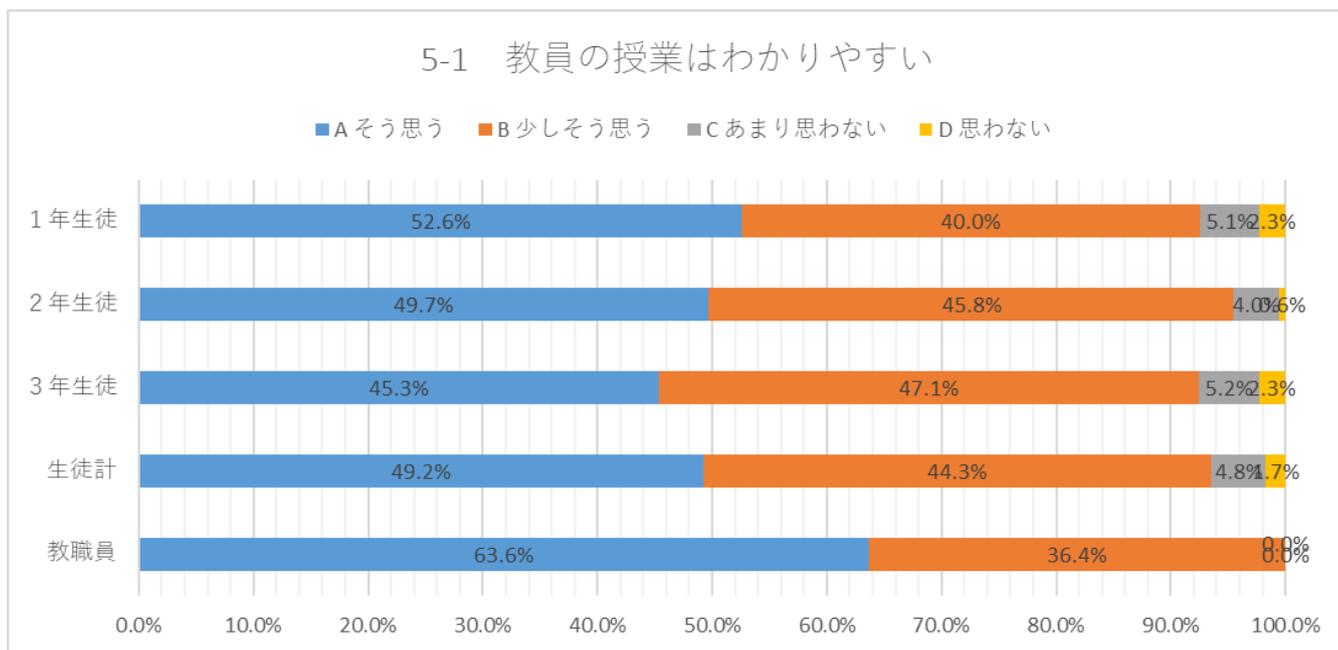
新型コロナウイルス感染症予防については、①感染予防、②感染拡大予防の2つが必要不可欠です。校内においては、昨年度に引き続きマスクの着用、手指の手洗い、身体的距離の確保、感染リスクの高い活動の制限等を行う一方、国、県、市の新型コロナウイルス感染症に対する方針に基づき、授業における実験・実習の実施、朝の入室前の健康観察の廃止等、感染症対策を変更してまいりました。

設問4「教育活動において感染症対策が十分に行われている。」については、生徒は昨年度とほぼ同様の約96%の生徒が、十分な感染症対策が行われていると回答しています。その一方、保護者及び教員は生徒に比べ、改善の余地があると考えています。今年度は、本校では3クラス（令和4年12月末現在）で新型コロナウイルスの集団発生が判定されましたが、認定前の段階で感染拡大防止を目的として、学級閉鎖を実施いたしました。今後も、集団発生の疑いがある場合は、速やかに対応いたします。また、今年度は、無症状や軽症状の感染者が増加し、感染経路が御家庭なのか、学校内なのか、学校外なのか特定できないケースが非常に多くなっております。今後も学校においては、感染防止及び感染症拡大防止に努めてまいりますが、学校における集団感染を防ぐためには、御家庭における健康観察が大変重要となりますので、御理解、御協力をお願いいたします。

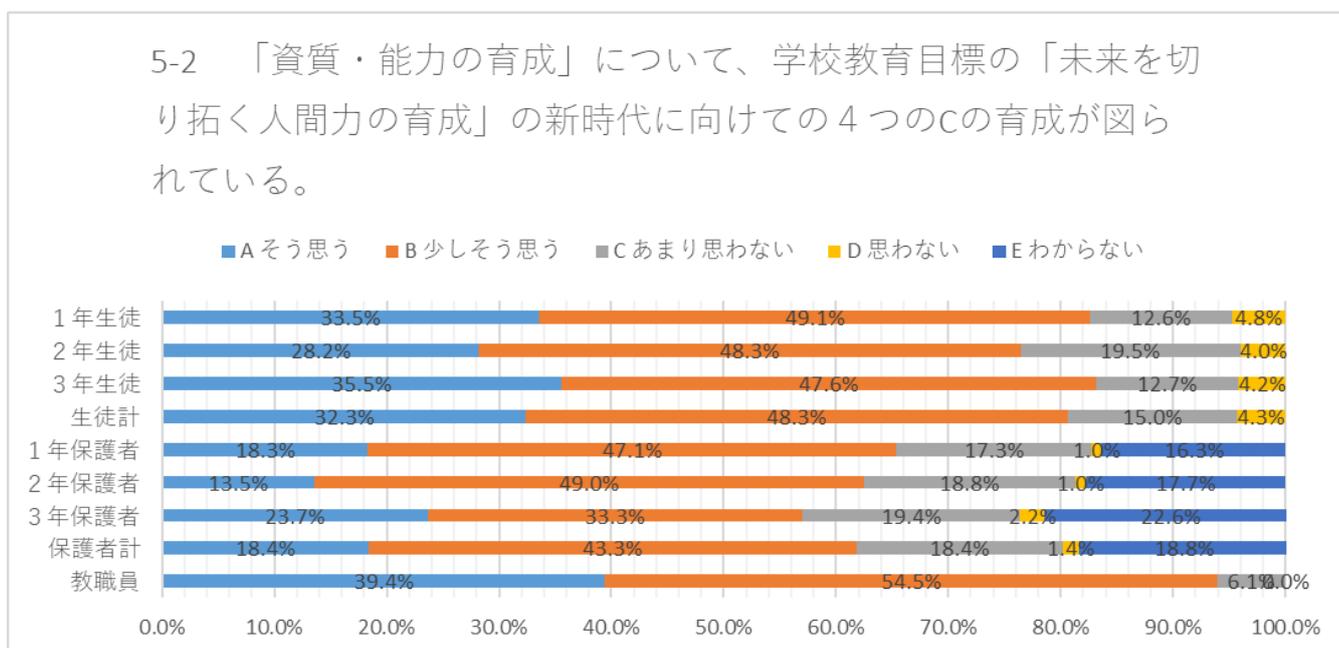
一方、設問3「『健康・体力』について、教育活動を通じて心と体の調和が図られている。」については、生徒、保護者ともに約8割が肯定的意見となり、特に、保護者は昨年度に比べ、5%以上肯定的評価が増加しました。昨年度と比較し、体育の授業や部活動等においては熱中症の恐れのある時期を中心にマスクを着用しない活動が増加したり、体育祭については学年ごとの入れ替えを廃止する等、体を動かす活動を増加させた結果と考えられます。

(5) (6) 資質・能力の育成【新時代に向けて4つのCの育成】

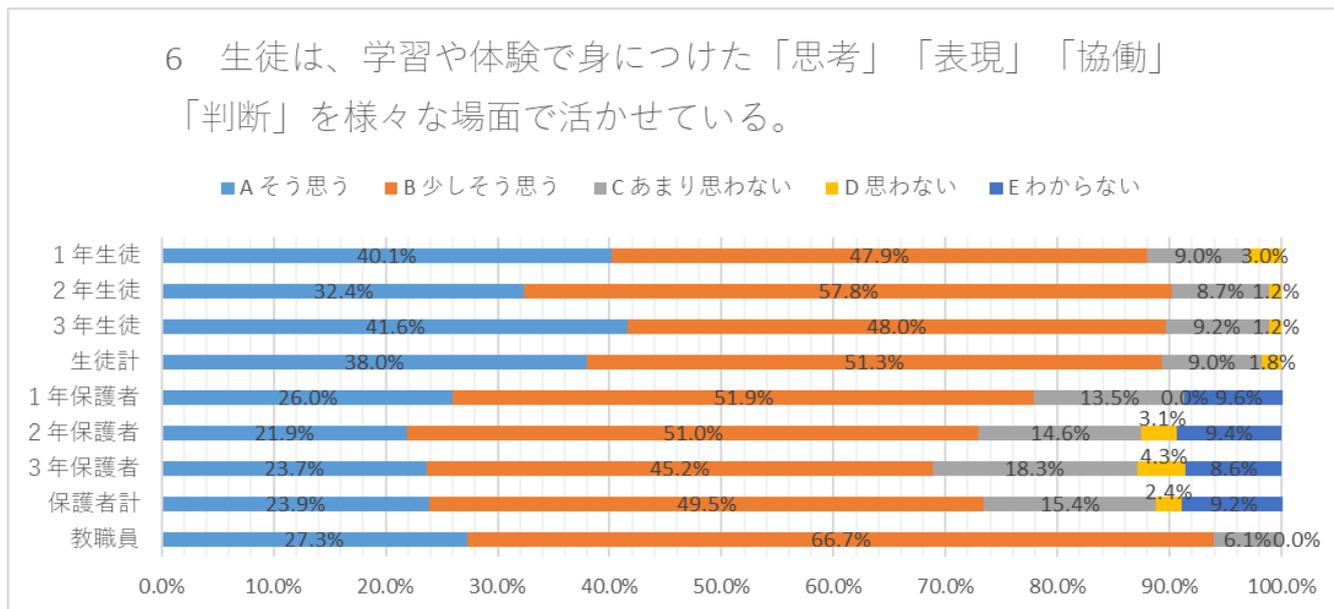
■設問5-1 「教員の授業はわかりやすい。(教職員は「授業がわかりやすくなるよう努めている。」)」



■設問5-2 「『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」



■設問6 「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かしている。」



学校目標については、昨年度より、現在の本校の状況と新時代に求められる力を鑑み、以下の4つの力を育成することとし、授業、学校行事、部活動等、すべての学校生活において、この4Cの育成を図ってきました。

- ・ Creativity(クリエイティビティ)「自由で柔軟な発想を大切にしよう」
- ・ Communication(コミュニケーション)「お互いの考えをしっかりと伝えあおう」
- ・ Collaboration(コラボレーション)「みんなで力を合わせて問題を解決しよう」
- ・ Critical(クリティカル) thinking(シンキング)「それで本当に良いのか慎重に考えよう」

設問5-1「教員の授業はわかりやすい。(教職員は「授業がわかりやすくなるよう努めている。)」は、今年度新たに追加し、生徒の約93%が肯定的意見となっています。授業は、学校の教育活動の基盤であり、生徒、教職員、保護者の信頼関係の基礎となると考えています。今後も、生徒の実態に合わせ、学習指導要領に基づいたわかりやすい授業に向けて改善を続けていきます。

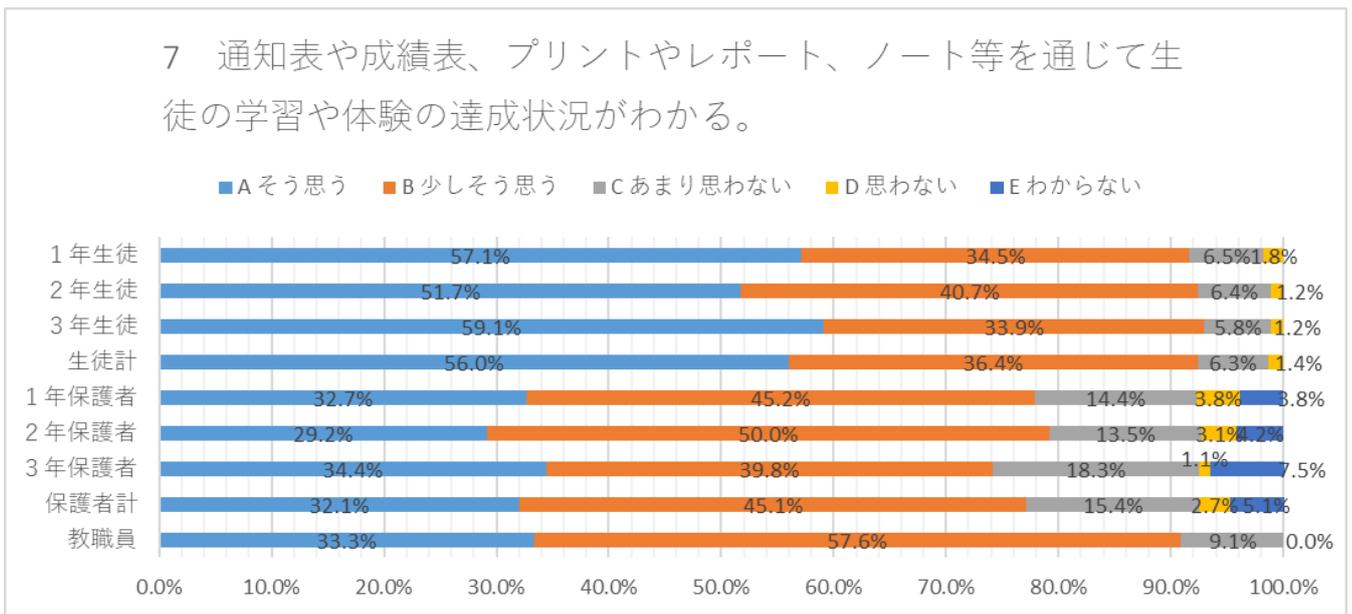
設問5-2「『資質・能力の育成』について、学校教育目標の『未来を切り拓く人間力の育成』の新時代に向けての4つのCの育成が図られている。」については、昨年度と比較し、最も肯定的意見が増加した項目となりました(生徒: R3 73.7%→R4 80.7%、保護者: R3 52.3%→R4 61.8%)。生徒の様子を見ていると、学校行事及びその行事を成功させるための事前・事後の活動で、4Cを向上させる場面が非常に増加しています。今後も「目に見えない学力」が身につくように、また、生徒が実感し、普段の生活でその力が発揮できるよう取組を改善していきます。

また、設問6「生徒は、学習や体験で身につけた『思考』『表現』『協働』『判断』を様々な場面で活かしている。」については、生徒の「思考」「判断」「協働」「判断」を活かしていないという回答が教員で昨年度は25%でしたが、今年度は約6%に減少するとともに、生徒及び保護者の肯定的意見も約5%増加しました。今年度は、様々な場面で、生徒による主体的な運営に関し、いくつか改善を図っています。第1学年においては、全員が「自律手

帳」を使用し、自ら学び、考え、行動する生徒の育成を目指しています。学級会において、学年目標が達成できたかを全員で振り返り、問題点を洗い出すと同時に、改善点を話し合っています。また、全学年を通して、校外学習、林間学校、修学旅行等の旅行行事では、各係が中心となり、自ら目標やルールを決め、自分たちで声を掛け合いながら実施することができました。特に、第3学年については、小学校6年生から宿泊を伴った行事を行うことができていなかったため、当初は不安な面もありましたが、事前学習を通じて成長し、主体的に行動することができました。

(7) 何が身についたか

■設問7「通知表や成績表、プリントやレポート、ノート等を通じて生徒の学習や体験の達成状況がわかる。」

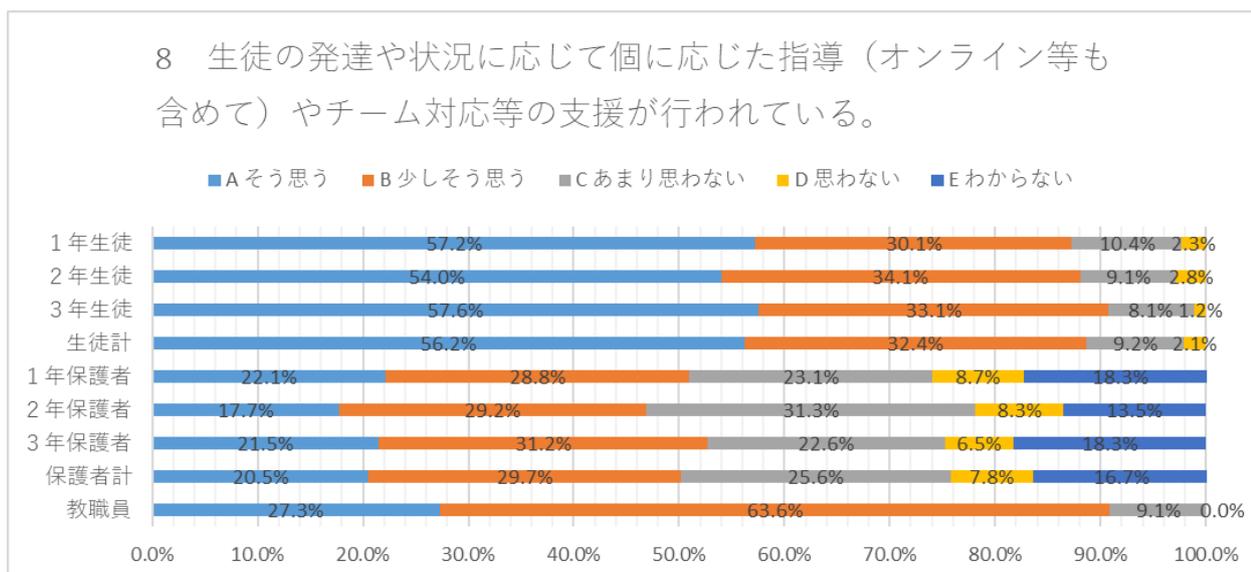


ほぼ昨年度と同様の結果となりました。今年度、学力向上に係る取組として、各教科の年間授業内容、評価方法を記したシラバスを配付し、年度当初にそれぞれの授業内で生徒に説明いたしました。また、後期からシラバスを本校ホームページに掲載し、保護者や学校を長期で欠席している生徒も学校がどの単元を行っているかを自宅で確認することができるようにいたしました。

また、今年度は通知票の所見欄を廃止し、10～11月にかけて、全保護者・全生徒を対象とした3者面談を実施いたしました。短文による所見ではなく、実際に3者で学校生活を振り返り、課題の確認、進路相談等を行い、その後の学校生活に活かしています。

(8) 生徒の発達をどのように支援するか。【配慮を必要とする生徒への指導】

■設問8 「生徒の発達や状況に応じて個に応じた指導（オンライン等も含めて）やチーム対応等の支援が行われている。」



個に応じたきめ細やかな指導とチームによる対応・支援については、生徒は約89%、教員は91%がそのような対応が行われていると回答したのに対し、保護者は約50%にとどまり、否定的意見が昨年度より増加し、33%を超えてしまいました。

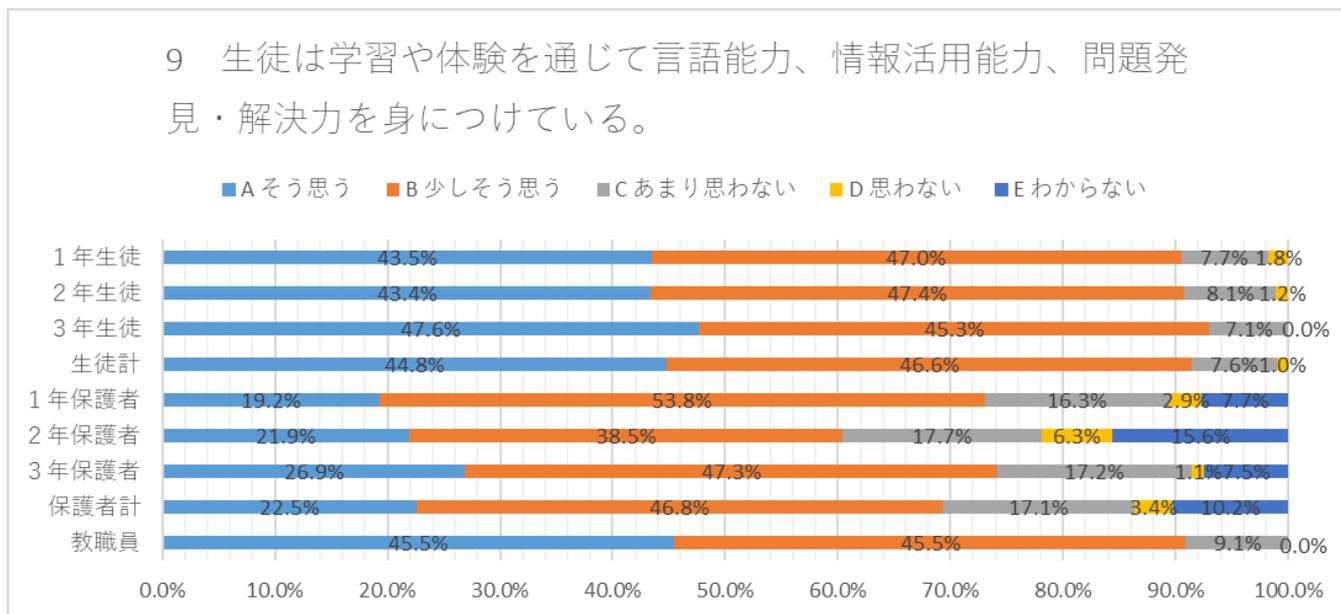
不登校支援については、今年度より教室への復帰を目指す生徒を個別に支援するセカンドルームに常駐の職員を配置し、登校から下校まで一貫した指導を行っています。その結果、学校へ登校できる生徒が増加傾向にあります。

一方、感染症に係る登校自粛に対応したオンラインによる授業配信については、昨年度に引き続き実施しておりますが、体育や技術等の実技教科ではオンライン配信を実施できなかったり、ネット環境によって音声聞こえずらい等トラブルもありました。また、新型コロナウイルス感染症により、影響を受けていた実験、実習、協働学習等が広く再開されたことにより、オンラインではその内容がうまく伝わらない授業もありました。

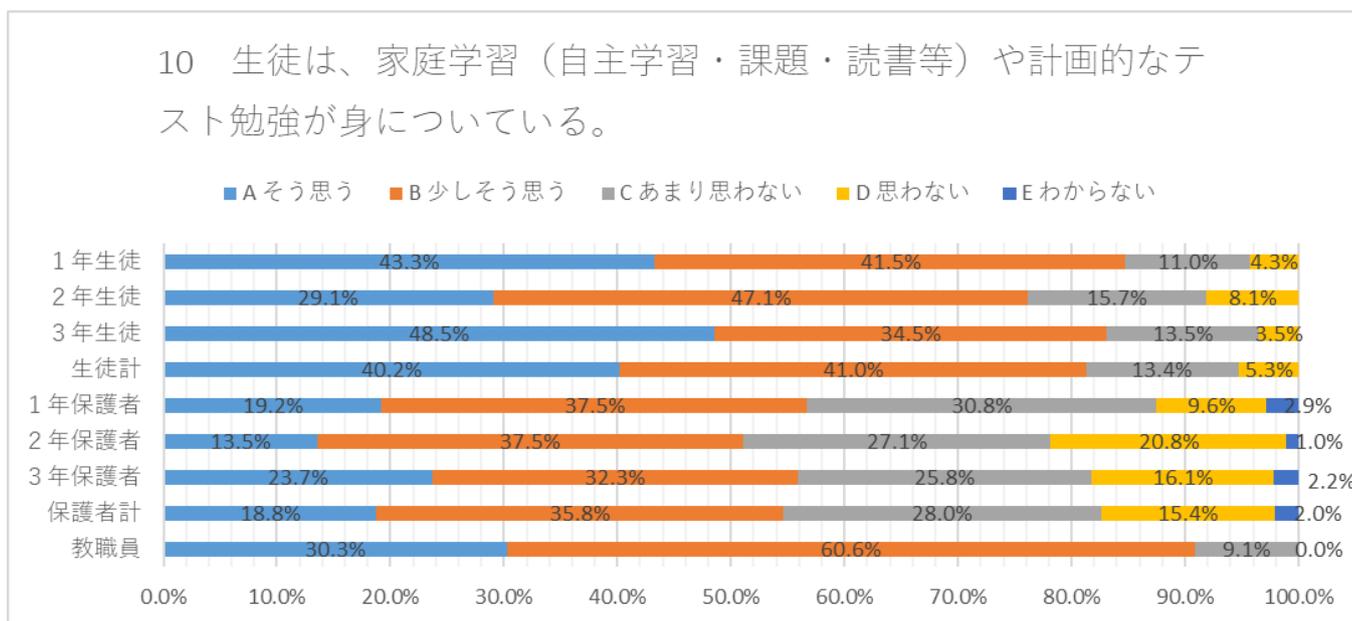
また、特別な支援を要したり、成績不振の生徒に対する個に応じた指導については、保護者の方から複数の改善に関する要望がありました。実際に基礎学力が十分に身につけていない生徒がいることから、誰一人取り残すことのない教育を目指し、次年度に向け、学力向上に向けた新たな対策を検討してまいります。

(9) (10) 何を学ぶのか。【教育課程の編成】

■設問9 「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけている。」



■設問10 「生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身につけている。」



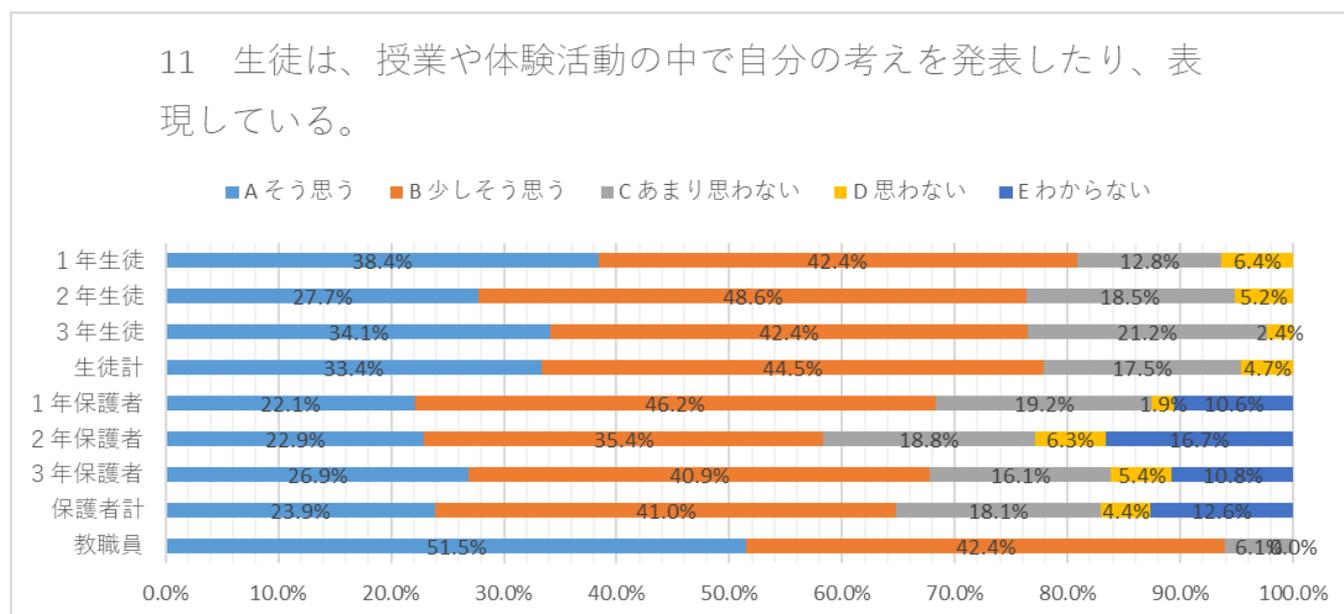
設問9 「生徒は学習や体験を通じて言語能力、情報活用能力、問題発見・解決力を身につけている。」については、生徒及び教員の約91%以上が身についたと回答していますが、保護者は約69%にとどまっています。校内での学習については、改善が見られるものの、生徒が普段の生活でその力を発揮できていないと考えられます。

設問10 「生徒は、家庭学習（自主学習・課題・読書等）や計画的なテスト勉強が身につけている。」については、身につけていると回答した割合が、生徒が約81%に対し、保護者は約55%となっており、生徒と保護者にかなり開きがあります。学校においては、定期テスト前の学習計画表等を利用した家庭学習の促し、一部の教科では生徒用端末から接続することがで

きるオンラインドリルの活用を実施いたしました。また、提出物については、提出期限や内容について、多くの教科で細やかに指導を行っています。その結果、教員で肯定的意見は、昨年度の約71%から91%に増加しています。教員は、課題、小テスト、宿題等を課し、生徒も家庭で学習していると思われませんが、約33%の保護者が家庭学習が身につけていないと回答していることから、その量や質がすべての生徒にとって十分でないと考えられます。家庭学習については、宿題や課題等の学校から与えられたものだけでなく、自主学習の必要性を引き続き生徒に伝え、家庭学習の充実を図りたいと考えております。

(11) どのように学ぶのか。【教育課程の実施】

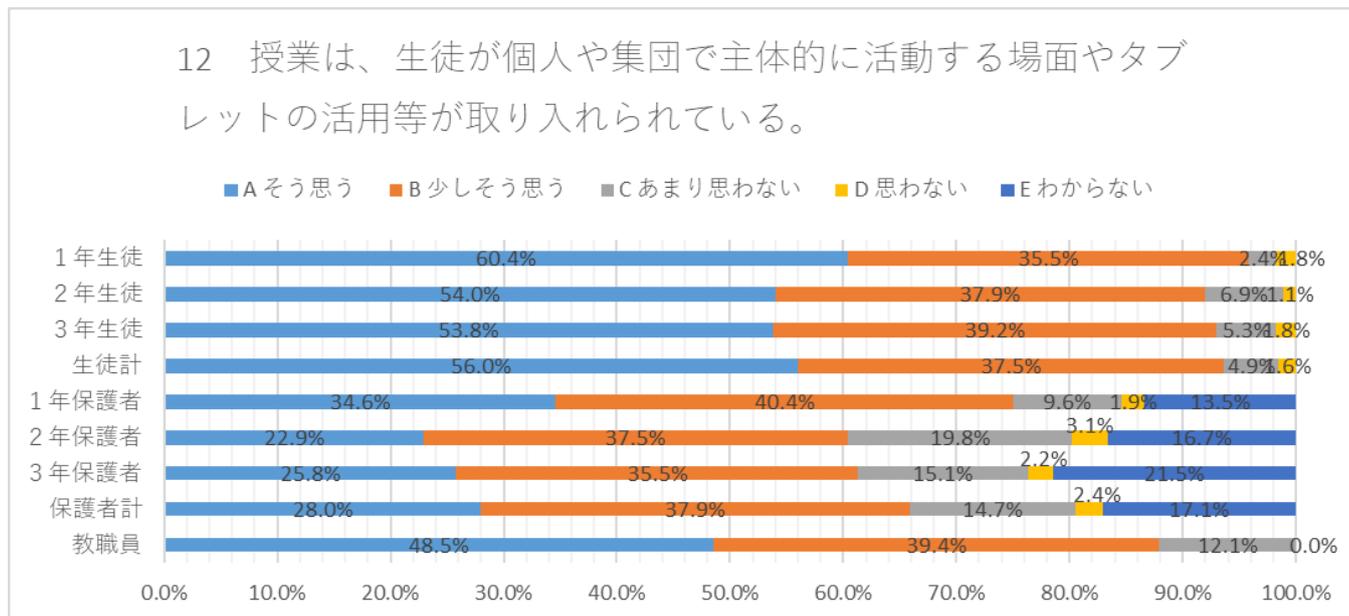
■設問11 「生徒は、授業や体験活動の中で自分の考えを发表或し、表現している。」



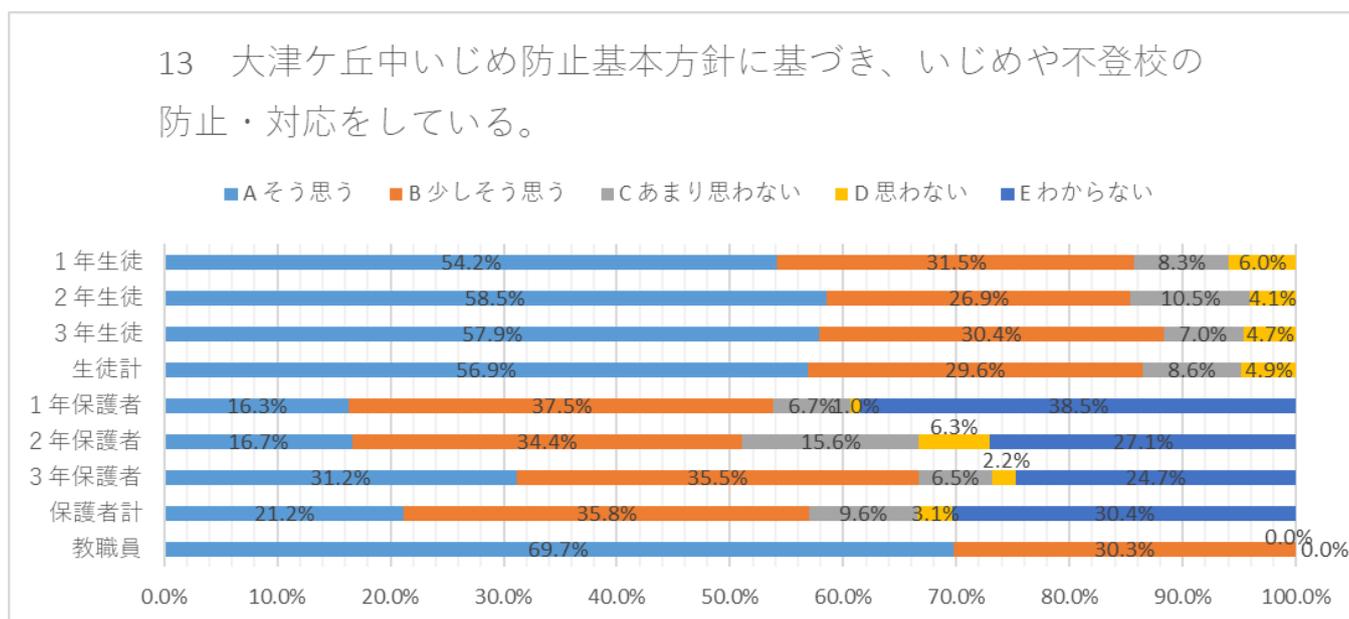
教員は94%以上が授業や体験活動で発表や表現する場を設定していると考えているのに対し、生徒は78%、保護者は65%にとどまっています。昨年度と比較すると生徒及び保護者の肯定的意見は増加していますが、まだまだ大きな開きがあります。今年度は、授業内だけでなく、生徒総会において、時間を大幅に延長し、生徒の発表の機会を設けたり、学活や総合的な学習の時間においても表現活動を多く取り入れましたが、不足していると考えられます。来年度も授業だけでなく、学活や学校行事等においても、生徒が自分の考えを表現したり、伝える課題や場面づくりを増加する必要があると考えます。

(12)(13)(14) 実施するために何が重要か。【指導体制の充実、家庭・地域との連携・協働】

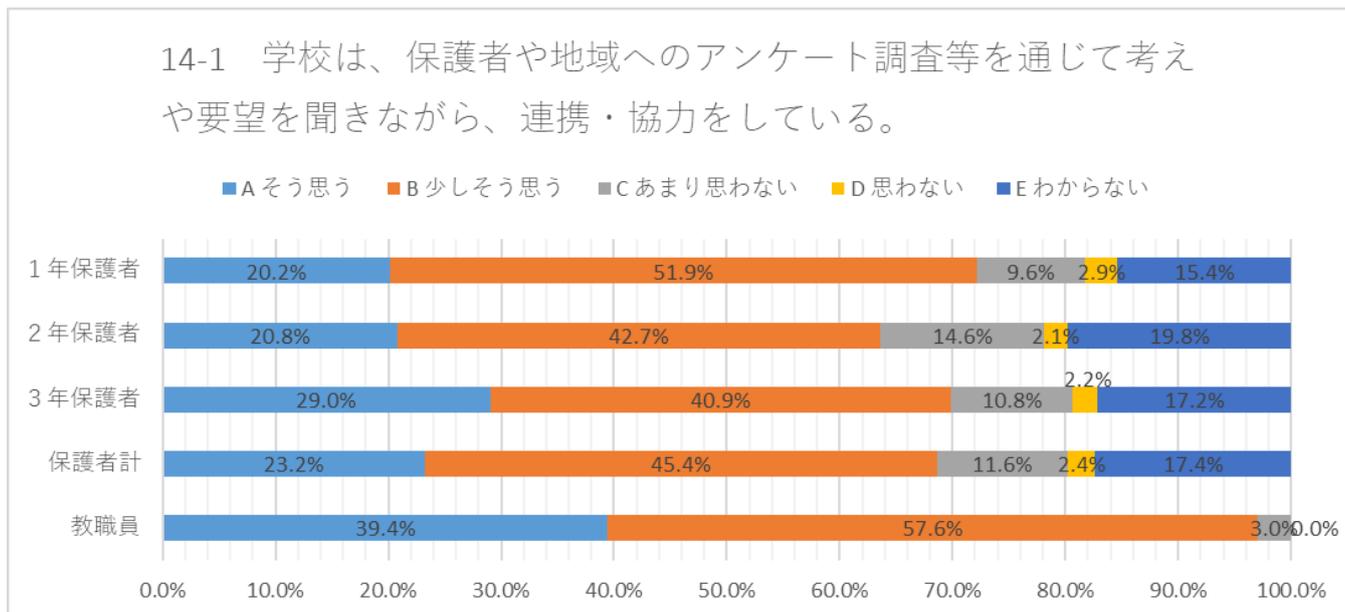
■設問12 「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」



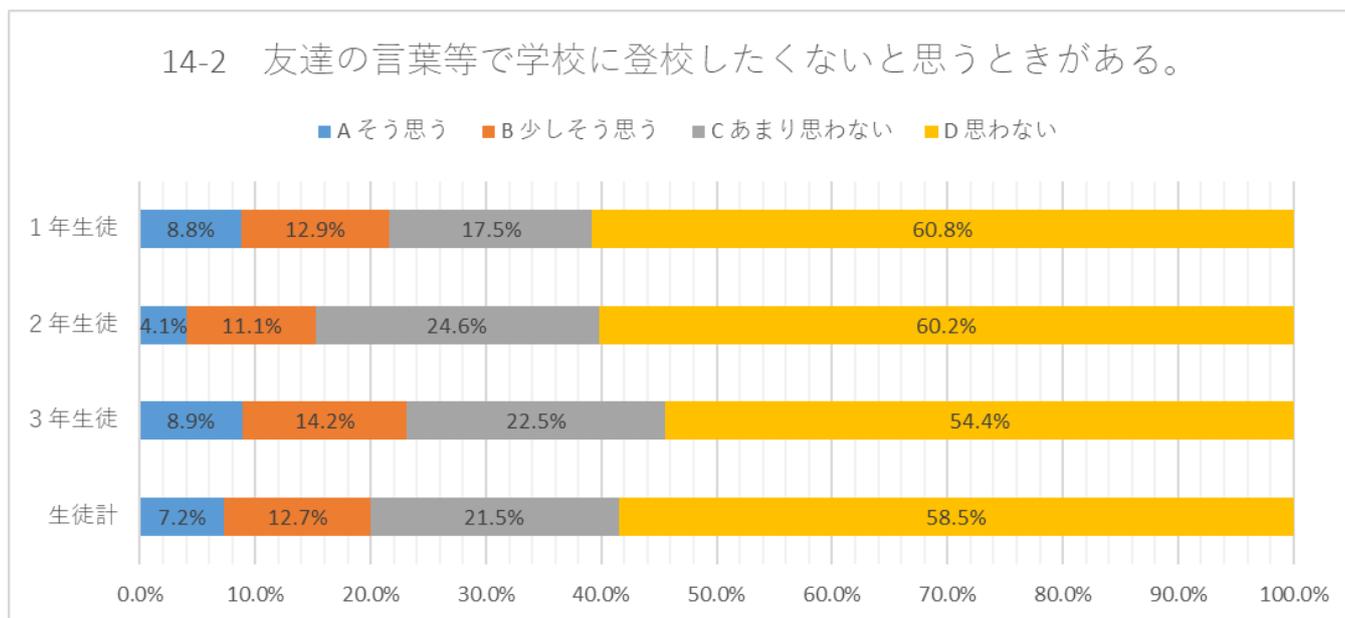
■設問13 「大津ヶ丘中いじめ防止基本方針に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。」



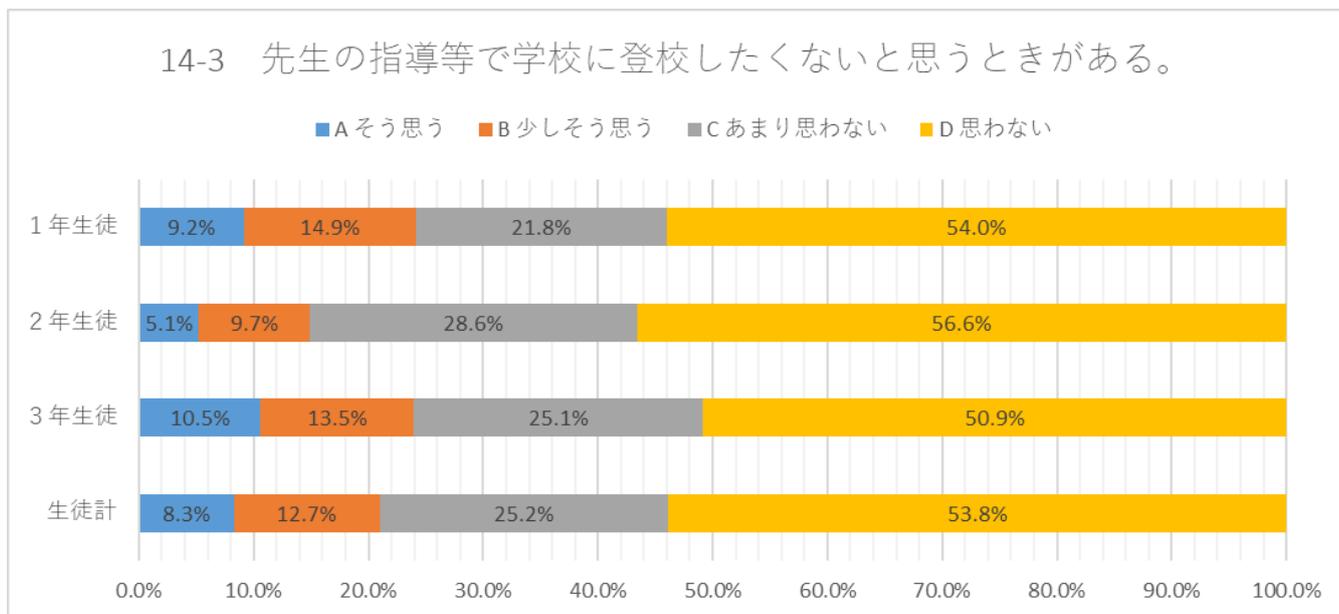
■設問 1 4 - 1 「学校は、保護者や地域へのアンケート調査等を通じて考えや要望を聞きながら、連携・協力をしている。」



■設問 1 4 - 2 「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」



■設問 1 4 - 3 「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」



設問 1 2 「授業は、生徒が個人や集団で主体的に活動する場面やタブレットの活用等が取り入れられている。」については、生徒は約 9 4 %、教員は約 8 8 %が肯定的であるのに対し、保護者は 6 6 %にとどまりました。

授業、クラス活動において、主体的に取り組む活動やオンラインを活用した取組は広く行われるようになっており、パソコンの使用頻度も高くなっています。タブレットについては、学校内の使用だけでなく、生徒が学習用に自宅に持ち帰り、自主学習としてオンラインドリル等を使用することも可能ですので、自宅での使用のルールを確認いただき、ぜひ御家庭でも活用できるようにしたいと考えております。

設問 1 3 「大津ヶ丘中いじめ防止基本方針に基づき、いじめや不登校の防止・対応をしている。」については、生徒は 8 7 %、教員は 1 0 0 %が取り組んでいると回答したのに対し保護者の方は 5 7 %にとどまり、分からないが 3 0 %を超えてしまいました。学校では、日頃から、いじめのない学校を構築するため、「予防」「対応」「相談」「連携」「組織」「啓発」に努めています。いじめについては、教職員や保護者の目の届きにくいところで発生することから、日常の学校生活での観察だけでなく、学級担任を始め相談しやすい教職員へ相談でき、毎日の生活ノート、年 3 回のいじめアンケート調査等から予見及び早期発見に努めています。また、外部の相談機関も周知しています。いじめが予見されたり、発生した場合には、事情確認等を実施し、早期解決に努めています。最近ではインターネットを通じて、人間関係のトラブルが増加していることから、5月に外部講師を学校に招き、保護者及び生徒対象の情報モラル教育を実施いたしました。

設問 1 4 - 1 「学校は、保護者や地域へのアンケート調査等を通じて考えや要望を聞きながら、連携・協力をしている。」については、今年度、保護者の考えや要望を広くいただき、学校運営に反映させるため、授業参観を 3 回に増やし、第 1 回の授業参観を土曜日に設定するとともに、授業参観や体育祭等、保護者が来校した学校行事後にすくすくメールにて保護者アンケートを実施いたしました。また、開催とし、多くの保護者の方に来校いただくことができました。第 1 回の授業参観では、様々な意見の他、「複数の授業を見たい」「いろいろな教科を見た

い」との要望があったことから、第2回の授業参観では、2時間の授業参観を実施いたしました。また、昨年度、複数の保護者から、健康観察票の押印漏れによる再登校の危険性についての御指摘がありました。保護者の皆様の御協力により、今年度は自宅での生徒の健康観察が定着したこと、また、本校の通学路の一部で交通事故が起こりやすい箇所があることから、4月21日より、押印漏れによる再登校を廃止いたしました。

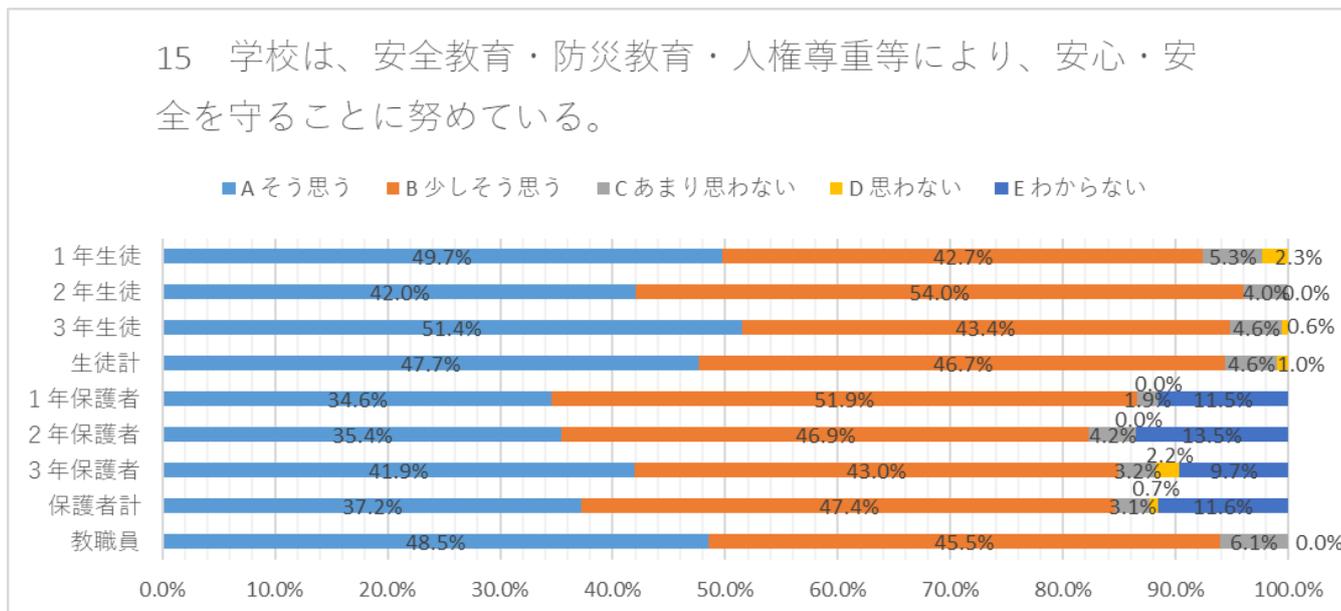
本校では、学校教育、家庭教育、社会教育を個別に捉えるのではなく「共育」を目指し、学校、家庭、地域の役割分担と協働を目指しています。今年度は、PTAには、9月、12月、2月（予定）の年3回の環境整備の他、体育祭においては受付も担当していただきました。また、地域との協働については、来年度中にコミュニティースクールに移行予定であり、現在準備を進めております。

設問14-2「友達の言葉等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、20%の生徒が登校したくないことがあると回答しています。友人関係のトラブルについては、未然防止とともに、日頃から生徒とのコミュニケーションを大切にするとともに、教育相談やアンケートを実施し、早期発見、早期解決に努めます。

設問14-3「先生の指導等で学校に登校したくないと思うときがある。」については、約21%の生徒が教員の指導等により登校したくないことがあると回答しています。今年度は、教員の指導が不適切と考えられ、生徒にストレスを与えるケースがあったことから、職員研修を実施いたしました。また、学校生活の中で教員の言動に対し、生徒がストレスに感じていると申し出があったケースについては、直接管理職が生徒に話を聞き、改善を行う機会を設けています。

(15) 安心・安全を守る。

■設問15「学校は、安全教育・防災教育・人権尊重等により、安心・安全を守ることに取り組んでいる。」

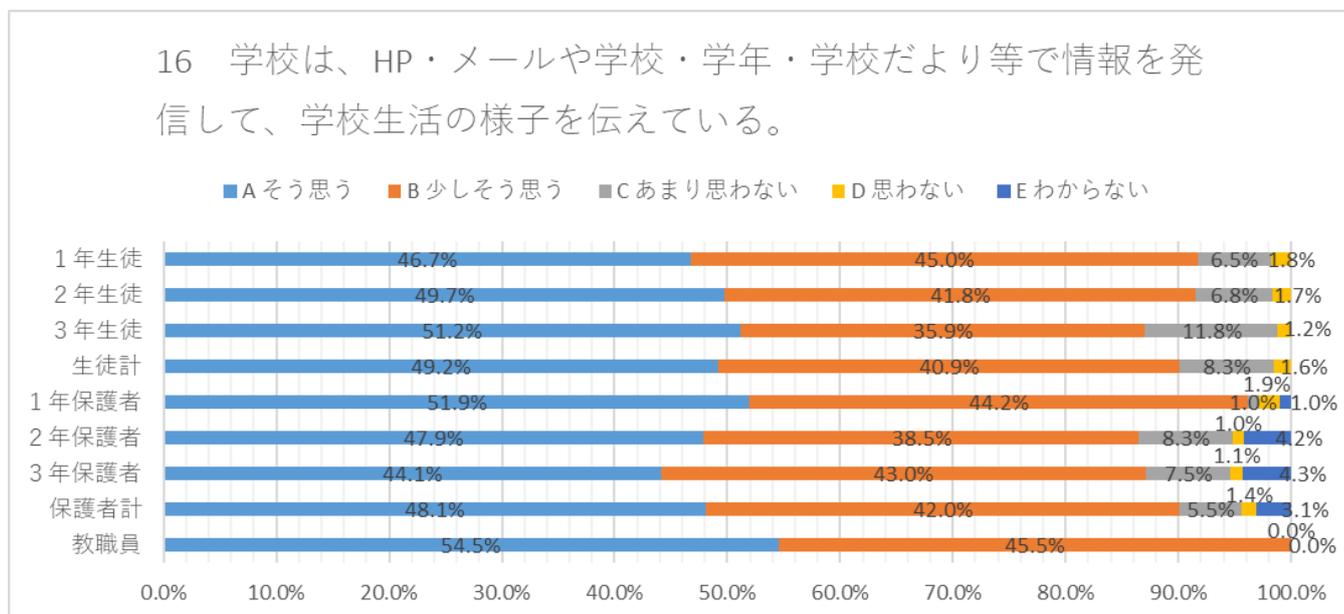


昨年度に引き続き、生徒約94%、保護者約84%、教員約94%とすべてにおいて高評価となりました。安全教育・防災教育については自分の命を自分で守る力の育成、人権尊重の観点からは自己有用感を感じることができる集団づくりを目指しています。本校では、インター

ネット上の人間関係のトラブルが頻発していることから、令和4年度は外部講師を招き、保護者及び生徒対象の「情報モラル講習会」を実施いたしました。様々な具体的な事例をもとにした講演会で、保護者と生徒が今一度携帯電話等、通信機器の使い方を振り返り、新たなルール作り等のきっかけとなりました。また、第2学年については、現在、給食の時間に情報モラルについての動画視聴を実施しています。

(16) 開かれた学校づくり

■設問16 「学校は、HP・メールや学校・学年だより等で情報を発信して、学校生活の様子を伝えている。」



生徒、保護者、教員すべてが90%以上の評価を得ましたが、保護者の肯定的意見は約5%減少しました。これは、昨年度まで、新型コロナウイルスの影響により、学校に来校することができない御家庭や地域に本校の生徒の様子を知っていただくため、ホームページの更新を増加しておりましたが、今年度は、保護者が学校に来校し、直接生徒の学校生活の様子を御覧いただく機会を増加することと、学校だより、学年通信、学級通信、進路だより、部活動等のすくすくメール等の充実を図った一方、ホームページの更新が減少したことが原因と考えられます。不特定多数が閲覧できる学校ホームページの写真の掲載については、個人が特定されないように配慮をしていることから、情報発信の在り方については今後も検討してまいります。